

平成24年度愛知県がんセンター公開講座(第8回)のご案内  
「がんと診断されたら緩和ケア」  
= 平成25年2月9日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「緩和ケアをはじめから受けるために」

緩和ケアとは、いったいどんなものなのでしょうか？

現在、日本国民の2人に1人はがんにかかります。3人に1人は残念ながらがんで亡くなります。しかし、がんになった方の約50%が「治る」ようになりました。

がんは、今や「治る」病気でもありますが、同時に一緒に付き合っていかななくてはいけない病気にもなってきました。生活を送りながらいかにがんと付き合っていくかが、問題となってきています。病気により引き起こされる様々な苦痛を、できるだけ和らげながら「普通に」暮らすためには何が必要か、それを一緒に考えませんか？その中で、緩和ケアはどんなものなのか、何ができるのかを皆さんに知っていただければと思います。

中央病院 緩和ケア部 医長 下山 理史

「ディグニティセラピーのすすめ」

「ディグニティ」とは「尊厳」という意味です。そして、ディグニティセラピーとは、終末期のがん患者さんたちに、これまでの人生を振り返り、自分にとって最も大切なことをあきらかにしたり、家族や周りの人々に一番憶えておいてほしいものについて話す機会を提供するものです。カナダのマニトバ大学精神科教授、チョチノフ博士によって、患者さんおよびその家族が実存的不安に対処できるよう考案され、数年前から日本でも実践されています。

中央病院 緩和ケア部 医長 小森 康永

「緩和ケアは決して特別なものではありません」

緩和ケアとお聞きになってまず頭に浮かんだフレーズはなんのでしょうか？

「死」？「末期」??「最後」???

患者さんと一番接する時間の長い看護師の立場から、日頃行っている緩和ケアについてお話しさせていただきたいと思います。

キーワードは「早期」！「一緒に」！！「生活の質」！！！！です。

中央病院 看護部 緩和ケア認定看護師 美濃屋 亜矢子